先輩を訪ねて

KOSE 企業訪問

学生役員　斉藤　聖

◆訪問者◆

- 兼田千奈美（跡部研究室）
- 木下　美栄（小林研究室）
- 新田　亜季（横山研究室）
- 斉藤　　聖（渡邉・獨古・上野研究室）
- 土佐　桃波（渡邉・獨古・上野研究室）

◆概要◆

2017年７月７日、株式会社KOSEの王子にある製品開発研究所（以下KOSE）を訪問、見学させていただき、石塚由紀子様、高井様、大石郁様（元本大学大学院荒巻研究室所属）にお話を伺わせていただきました。大石様は本大学院を卒業された後KOSEにて製品開発に携わっておられるそうです。KOSEでは、「美しい知恵　人へ、地球へ」のスローガンのもとで、美の創造企業として、美にまつわるあらゆる知恵を出し合い、人々のために、そして大切な地球の未来のために、役立てていこうという企業姿勢を表しています。

◆応接室での企業概要説明◆

KOSEでは、本社を日本橋に置き、製品開発を王子、基礎研究を板橋で行っておりますが、すべてを都内に据えることで移動がdoor to doorで30分くらいなのでプランナーとの連携が少しでもとりやすくすることを可能にしています。現在、王子に基礎研究のための新たな研究所を建設中であり、完成後板橋から移転させることで更なる連携を高めるようにするようです。KOSEでは化粧品を主に取り扱っておりますが、化粧品は医薬品と違って効能だけでなく感性が必要であるため、効能がよくてもお客様に気に入ってもらえないと使ってもらえない。長く使い続けてもらうため、開発チームや顧客とコミュニケーションを常に取りつつ、流行にも常に念頭に入れながら開発することを心掛けているそうです。現在化粧品などで使われている色素のアスタキサンチンはKOSEが初めて化粧品に取り入れたりと、研究には余念がなく、近年では化粧品をただ化粧の目的に使うのではなく、医薬品として応用していくといったことも考えているそうです。

◆研究室見学◆

私たちが訪問した王子の製品開発の研究所では、３階がスキンケア部門、２階がベースメイク、ポイントメイク部門（粉を使う）、１階が香料部門（国家資格などは不要だが、約500種類のにおい成分をかぎ分けられるようになるには15年かかる。）となっておりました。基本的には製品を水溶性成分、油溶性成分、界面活性剤をまぜて作り、配合、混ぜ方を変えることで変化をもたらしているそうです。作られた材料は肌で触ってテクスチャーをその都度、その場で覚えるそうです。一人一製品を担当しており、本社のプランナーから要望をきき、それにあった製品を開発しております。そこでいくつかサンプルを用意して検討しているそうです。実際に見せてもらった工程として、粉と混ぜるときにはローラーを使って圧力をかけることで分散させていました。今回は使用中で見学できなかったものの、１階には実際に温度や湿度を変えることで、その製品の状況に応じた質感などを測定するための部屋もありました。会社全体の人数が200人とそこまで多くないのでスペシャリストを養成するのではなく一人で世の中に製品を送り出せるようになるまで受け持つそうです。また、一つの製作チームにずっといるのではなく、周期的に他のチームの製作にも携わるジョブローテーションが多いそうです。

◆質疑応答内容◆

Q　学生時代にやっておけばよかったこと

A　今となって考えてみると、狭い範囲についてつきつめて研究するのは、大学時代だけであったと思う。自分の特性を活かすためにもその分野のスペシャリストになっておけばよかった。

Q　大学で研究がどんなところで生きているか

A　界面化学を専攻していたので、今の研究分野に

近い。計画の立て方進め方は大学時代に学び今に生きている。

Q　大学で違う分野を学んでいても大丈夫か

A　むしろ違う分野を学んでいた人々の方が多い。バックグラウンドの違いがむしろお互いに高めあっている。様々な解決策を考えることができる。

Q　福利厚生について

A　周囲の理解が大きい。チームで研究しているので自分の仕事を他の人が助けてくれる。結婚出産で辞める人はほぼいない。ほとんどの人々が戻って研究をする。

Q　苦労ややりがいについて

A　やはり忙しい。だが時間をうまく使うことによってこなしている。製品の開発だけではなくプランナーとの打ち合わせ、その後の広報にまで関わることがある。しかしながら、広くに製品に関わることができるのがやりがいである。

Q　入社前後のギャップについて

A　実際のところなかった。社員同士のコミュニケーションが多い。自分の場合では、もともと学会でKOSEの社員と話す機会が多くあり雰囲気知っていた。

Q　なぜKOSEを選んだのか

A　一番は決め手となったのは人となり。また、一つのことに絞ってやるのではなく、幅広く製品に携わりたかった。企業選びの際には企業の人に直接話を聞いたり、HPを見たりすることで企業体系を知ることができる。

Q　自分で商品を企画することはあるのか

A　アイディア会議があり、そこでいい製品を思いついたら自分から本社に売り込みすることもある。実際に製品開発で表彰もされたのはうれしいことであった。

◆参加した学生の感想◆

・訪問する前の研究職のイメージが一変し、自分の今後の方向性を考える上でとても参考になりました。また、自分の中で選択肢を狭めるのではなく、広い視野を持って考えることの重要性を感じました。

・お話をして様々なことを知ったり、見学をすることで企業の実際の雰囲気を感じることができました。普段は見ることができない、商品ができる現場を見ることができて非常にワクワクし、いい経験となりました。これからの2年間研究に励みつつ、理想の将来を考えて就職活動に挑みたいです。

・研究所と聞くと、実験台に向かって黙々と作業をしているイメージを持っていたが、KOSEでは社員の方どうしがコミュニケーションを多く取って明るい雰囲気の中で楽しそうに仕事をしており、想像と全く違っていました。また、少ない人数ゆえに一人が商品の開発から販売まで広い範囲に関わり、様々なことを学ぶことができ、そこが非常に魅力的だなと感じました。

・技術職というと実験室で研究をするのみという先入観があった。そのため、製品が世に出るまで関わっていくこともあるというのに驚いた。今までの理系研究職のイメージが少し覆ったように思う。

・実際に企業に訪問しなければわからない社内の雰囲気などが伝わりました。学生から企業への研究の繋がりも聞けて、これからの研究への意識も高まりました。

◆最後に◆

今回の訪問では中々見ることはできない研究所の見学、先輩、企業の方との質疑応答をさせていただき、非常に貴重な体験をさせていただきました。この場をお借りしまして、今回の訪問にご協力いただきました米山様、お忙しい中時間を作っていただいた石塚様、高井様、大石様、そしてKOSEの皆様に感謝申し上げます。

ジェイオーコスメティクス株式会社

学生役員　小泉翔太郎

◆訪問者◆

- 梶井　健司（多々見・飯島研究室）
- 大山　暁史（川村研）
- 金子　莉奈（川村研）
- 土屋　聖人（大山研）
- 小泉翔太郎（大山研）

◆概要◆

2017年６月19日、ジェイオーコスメティクス株式会社本社工場、東京工場を訪問、見学しました。さらに、本社にて中野彰浩さん、畑野淳嗣さん、新宮圭介さんにお話を伺うことが出来ました。ジェイオーコスメティクスは他社の注文依頼を受けて製品を設計、製造するOEMメーカーであり、斬新な創造力と高い技術力で新しい価値を見出しています。

◆見学◆

ジェイオーコスメティクスは東京都内に工場があり、本社と工場が近いことが特徴的です。今回は東京工場と本社工場を見学させていただきました。

初めに伺った東京工場では化粧品の製造ラインが整備されており、機械と人間のダブルチェックにより高い品質管理がなされていました。工場に入場する際には衛生面からエアシャワーを行い簡易的な白衣を着ました。原料の混合や製品を充填する部屋などではより厳重な衛生管理がなされ、気圧を変化させることで空気の流れを調整し、従業員の方々は棒人服を上から着るなどの取り組みが行われていました。また、微生物検査室という製品の微生物の繁殖度合いなどを検査する部屋もありました。東京工場では化粧品GMPに基づいた徹底的な品質管理を間近で見学することができました。

本社工場では化粧品の商品開発が主に行われていました。工場内よりも小スケールの乳化窯があり、染料と原料を実際に混合した様子をより近くで見学することができました。研究室内では様々なコミュニケーションがなされており、製品に対する意見交換がしやすい環境が整っている印象を受けました。

徹底した品質管理、充実した実験環境、また意見交換しやすい職場の雰囲気が安心安全で高い技術力を持ったモノづくりを生み出していると思いました。

◆インタビュー内容◆

- 職場について

　ジェイオーコスメティクスはジョブローテーションのシステムを導入しているため、製造ラインや研究所など様々な部門で仕事をし経験値を積むことができるのが特徴だそうです。そのため、製品づくりにおいて開発から製造までと広い視野で捉えることができます。また、社内の様々な人と関係を持てるので、情報交換も活発に行われているようです。実際、研究所内の雰囲気はよく、打ち解けている様子が伝わってきました。新たな商品開発や品質管理の向上において、意見交換がしやすい環境は大変重要であることが伝わりました。

- 学生へのアドバイス

　グローバルな考え方や感覚を学生時代に磨いておく良いそうです。海外に商品を出す際には、お客様の依頼に対して素早く反応する姿勢でないと、他の多国籍企業に負けてしまう。特にスピード感はグローバルな世界で戦っていくには必要だとのことです。そこで、海外への旅行や、外国籍の方と話すなど、積極的に海外と接する機会を設けると将来的に役立つはずとアドバイスをいただきました。

◆参加者の感想◆

- 大学の研究と企業の研究との違いを実際に実感することができた。企業での研究には様々な分野の知識が必要だということを知ったので、それを身につけられるように日頃から意識して研究を行っていきたいと思った。
- 今回の訪問で、まず、化粧品がどのような工程で作られるのかを知ることができた。化粧品は化学、

化学工学以外にもさまざまな分野の研究が組み合わさって作られていた。私は将来研究職を志望しているので、幅広い視野を持つ必要性を感じた。また、OEM という形態について今回の訪問で初めて知り、研究を企業で行うにはブランドを持つ企業以外の選択肢もあることを理解できてよかった。

- 企業に勤める研究者の方々は、消費者と密接に関わる研究を行うため品質管理を徹底するなどの責任感を感じることができ、大学での研究や教授とはまた違った視点や価値観を持っていると感じました。このような全くない機会に参加できたことで、今後の研究生活の指針ができました。ありがとうございました。
- 今まで研究職として企業に勤めるイメージが湧いていなかったのですが　実際に職場を拝見しお話を伺うことで少しずつ将来の研究をしている自分が見えてきました。

◆最後に◆

今回の訪問で工場や研究室見学、先輩の研究者の方々のお話を伺うことで将来の職場のイメージをすることができました。このような貴重で有意義な時間を過ごすうえで、訪問にご協力して下さった中野さん、畑野さん、新宮さんをはじめジェイオーコスメティクスの研究者の方々に感謝申し上げます。ありがとうございました。